

令和5年度 第3回 吉田町総合教育会議 会議録

- 1 開催期日 令和6年3月26日（火） 午前10時00分
- 2 場 所 吉田町役場 町民ホール
- 3 出席者 田村 典彦 町長
北澤 雅恵 教育委員、増田 真也 教育委員
中村 成宏 教育委員
事務局 糸田 真男 学校教育課長、中山 孝宏 生涯学習課長
山村 加奈子 学校教育課長補佐、水嶋 浩之 主席指導主事
浅井 健 指導主事、川本 貴浩 教育振興統括
- 4 議事内容

1 開会

○事務局

開会に先立ちまして、相互の挨拶を交わしたいと思います。恐れ入りますが、御起立をお願いします。礼。御着席ください。

それでは、ただいまから令和5年度第3回吉田町総合教育会議を開催いたします。本日は大変お忙しい中、またお足元の悪い中、御出席を賜り誠にありがとうございます。私は本日の進行を務めさせていただきます、吉田町教育委員会学校教育課の糸田と申します。よろしく願いいたします。なお、本日、教育長それから塚本委員については、所用により欠席をさせていただいておりますので、御承知おきいただければと思います。

それでは、早速ですがお手元の資料の次第に沿って進めさせていただきます。始めに町長から御挨拶申し上げます。

(1) 町長あいさつ

○田村町長

着座で失礼します。おはようございます。朝から雨が激しく降って、大荒れの一日になりそうですね。昨日、所用で文部科学省に行きましたが、文部科学省でもICTという言葉が響きあって、本当にいろいろな意味で状況が変わってきていると感じます。

それから昔から言われることは、先生の仕事というのは2つあります。1つは

子供さんに知識を教え、子供さんの知識を向上させる。もう1つは、この先生に出会ったという、出会い方で感動を与えるのですよね。その先生の影響で、子供はがくと上がってきます。そういう先生との巡り会い、そういうことはこの頃あまり言われなくなってきましたが、子供に感動を与えるような先生というんですかね、非常に変化のスピードが激しいものになってくると、そういうものが必要ではないかなとそんな感じがします。

今日は吉田町総合教育会議にて意見をお伺いしたいと思います。どうぞよろしくをお願いします。

○事務局

ありがとうございました。続いて教育長からの御挨拶ですが、欠席のため省略をさせていただきます。

それでは、議事に入りたいと思います。ここからの議事進行は町長にお願いします。

2 議事

(1) 吉田町教育大綱について

○田村町長

それでは、次第に基づいて進行してまいりたいと思います。本日の議事は3つでございます。

まず最初に、吉田町教育大綱について、を議題といたします。事務局から吉田町教育大綱（案）に対するパブリックコメントの実施結果とそれを踏まえた吉田町教育大綱（案）の説明をお願いします。

○事務局

それでは、吉田町教育大綱について説明させていただきます。

資料No.1を御用意ください。こちらの教育大綱は、現在、令和2年度から本年度までの4年間を実施期間として取り組んでおりますが、この度、令和6年度から9年度までの新たな大綱（案）を作成しましたので、御説明させていただきます。

この大綱（案）につきましては、本年度に静岡大学の島田桂吾准教授を委員長とした教育推進委員会で3回、総合教育会議で2回、議論を重ねてまいりました。

そして前回、11月に開催されました総合教育会議におきまして、教育大綱の概要がおおよそ固まった中で、12月に実施しましたパブリックコメントでは、2人の方から12件の意見をいただいております。パブリックコメントの内容と回答につきましては、別に公表する資料で御確認いただければと思いますが、パ

ブリックコメントの御意見を踏まえた点については、こちらの資料No.1を説明する中で報告させていただきます。

それでは、資料をお開きいただきまして、まず1ページ目でございます。「はじめに」ということで町長の言葉を記載させていただいております。

次に、2ページ及び3ページにかけまして、こちらは大綱の趣旨、大綱の性格、期間、構成についてそれぞれ説明させていただいております。

続きまして4ページを御覧ください。4ページには教育目標を掲げまして、なげ町は「生涯にわたり学びあい高めあう人づくり」を教育目標として目指すのかということ、こちらに記載させていただいております。

5ページからは基本方針及び施策の方向性を記載しておりますが、文言につきましては、基本的に11月の総合教育会議で皆様にお示しをした内容と大きく変更はございません。

改めまして基本方針1につきましては、「生きる力の育成を目指す学校教育の推進」ということで、以下、御覧のとおり4つの重要施策をそれぞれ掲げているところでございます。

6ページでございます。基本方針2としまして、「心豊かに学び続け、学びを生かす生涯学習の推進」、こちらにつきましては、3つの重要施策を掲げております。基本方針3につきましては、「スポーツに親しむ活動の推進」ということで、重要施策を2つ掲げています。

7ページでございます。基本方針4「文化・芸術に親しむ活動の推進」ということで、こちらは3つの重要施策を掲げております。

最後に、基本方針5「学びやすく活動しやすい教育環境整備の推進」ということで、2つの重要施策を掲げています。

次のページにつきましては、左側ですが、これらの基本方針、重要施策を着実に推進していくことで、一番上にあります教育目標、「生涯にわたり学びあい高めあう人づくり」、こちらを目指すことを図で表したものでございます。なお、今回この体系図に「TCPトリビンスプラン」を表記しておりますので、その内容が分かるように、次のページにトリビンスプランの一覧を載せてございます。

また、めくっていただきまして、こちらが今回新たに付け加えました教育大綱にある用語の説明、こちらにつきましてこのような形で付け加えさせていただきました。

こちらはパブリックコメントで、「教育大綱が抽象的表現であるため、具体的に何を言おうとしているのかが見えてこない。説明等を加えれば、町民がより趣旨を理解できるような教育大綱になるのではないか」という趣旨の御意見をいただきましたので、それに対して「大綱とは地方公共団体の教育・学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標施策の根本となる方針を定め

るものであり、詳細な施策については、策定することまで求められているものではないので、吉田町教育大綱では教育目標・基本方針及び施策の方向性を定めるもの」であること、また、「具体的な対策・施策は、吉田町実施計画、吉田町教育元気物語T C P トリビンスプラン等に記載している」と今回回答をさせていただきましたが、教育推進委員会でも、「誰が見ても分かりやすいものに」という御意見もいただいておりますので、今回はこのような形で用語の説明を加えさせていただくとともに、具体的施策が見えてくるように、ひとつ前のページですが、トリビンスプランの一覧を付けさせていただいているところでございます。

以上が、令和6年度から令和9年度までの吉田町教育大綱（案）の概要でございます。なお、大綱につきましては、町のホームページにも掲載する予定です。事務局からは以上です。

○田村町長

ありがとうございました。それではパブリックコメントについて、又は吉田町教育大綱の案について御意見を伺いたいと思います。

○増田委員

今、説明にもありましたが、今回の基本方針・重点施策、これは簡潔に表現されていて、体系図も非常に分かりやすく、コミュニティ・スクールですとか個別最適な学び、協働的な学びとか、そういうキーワードを詳しく説明していて、先ほど話があったように誰が見ても分かりやすいものにということが非常に意識された、読み手に優しいというか、分かりやすい構成になっているというのを改めて思います。

全体的にキーワードは、何々しあい、しあうとか、共にとか、という何か人と人とのつながりを意識した言葉が非常に多く使われていると思います。学校教育の場の外国人がより増えて、また、不登校も以前よりは少し問題になっているかなと思いますので、そういったところの支援も厚くできるようなところにつながる教育大綱ではないかと思います。

○中村委員

今、増田委員がおっしゃったとおり、体系図は非常に見やすくなっていると思います。内容ですが、町長が「はじめに」で書かれたように予測困難な時代だとか、あるいは答えがないとか、そういうような時代であるとか、そういう時代に学び続けるとか、あるいは問い続けるであるとか、あるいは協働するとか、そういうことが重要になってくると言われていて、そういったことを念頭に置きな

がら作られているのではないかということを強く感じる内容であったと思います。

生きる力の意味、それから、教育の推進であるとか、あるいは生涯学習であるとか、スポーツに親しむだとか、文化芸術に親しむだとか、そういったものが全体的に町民が豊かに生きるとかそういったものを目指した大綱になっているのではないかと思います。

○北澤委員

とても分かりやすく書かれているなという印象です。ここの教育大綱は人づくりをテーマにしていますが、多様性、様々なライフスタイルに合わせたものを想像して作られていると感じました。

○田村町長

教育というものが生涯にわたり学びあい高めあう教育、吉田町の教育が表されているような感じがします。「生涯にわたり学びあい高めあう」、全てTOGETHERと言うのですかね、相手に対する思いやりをもって一緒になってやる、吉田町をルーツの場所で、原点で協力しあうというのは良いと思います。そういう意味で、私は教育大綱の意義を得て、吉田町の新しい町づくりの基本的なこととして、今後の我々の生き方としていきたいと思います。

昔から言われている教育というのは良く学び、よく遊ぶことですが、やはり知識や体づくりが基本にあります。一人でやることではなくて、全体の中でそういう取組が必要であると思います。皆さんの御意見をお伺いしたいと思います。

○増田委員

体系図のほぼ中心のあたりにあるのですが、コミュニティ・スクールです。各学校でCSディレクター、コミュニティ・スクールディレクターの方が活躍されていますが、より地域の方々への声掛けが強くなって、地域の方が、今、学校にどんどん入ってきているなというのをより感じます。

この前、2月22日に住吉小学校で「これからの学校フォーラム」というのがありまして、文部科学省のデジタル推進委員の新保先生という方がいらっしゃってお話を伺ったのですが、今、幕末とか明治維新以来の大きな日本の教育改革の時代にある。その頃は学校が最先端の場で、学校から地域へ情報を発信していくみたいな話がありまして、今もそうではないかという話があったのは、まさに自分もそう思っています。児童生徒がタブレットを使いこなして、プレゼン能力が非常に上がっていると思います。本当に今、最先端の場が学校にあるのではないかと感じていまして、それを子供たちが地域へもっと発信して行って、地域の

人がもっと学校に入ってきたら、より努力目標に定める、共に学びあうというのが実現できるのではないかと思います。

○田村町長

確かにそうですよね。増田委員がおっしゃるとおり、やはり新しい社会の先端を走る新しい世界を工夫していくことが必要ですよね。北澤委員はいかがでしょうか。

○北澤委員

本当に感心、ものごとに感心がなければそうなっていくことはないので、本当に多様性という、いろいろな方のいろいろな企画なり考え方を見なければ、成長していかないものだなというのも経験するので、吉田町が協働、一緒になっていろいろな刺激を受け合いながら成長できる町であってほしいと思います。現在すでに様々な活動を吉田町でされていますが、コロナで一旦止まってしまった活動もあると思うので、いいスタートではないですが、いいタイミングだと思います。

○田村町長

中村委員はどうですか。先生をやられていた頃と委員になられた今の教育と差異は感じますか。

○中村委員

そうですね。やはり大きな、自分が実際に感じているのは、やっぱり I C T が導入されたということなのですが、どこで言うのがいいのか分からないのですが、吉田町は非常にうまいタイミングを使って、教育全体を変革してきたなと思っています。平井指導主事が中心になって進めてきているとは思いますが、多分彼女一人でそれをやっても無理だと思うんですよね。それはその I C T の変革ということで、先生も全体の I C T の勉強をしなくてはいけないという状況の中で、町全体の会合というのを立てて、小学校・中学校の先生方の意識が、I C T に向いて授業を変えなくてはいけないという時に、佐藤先生という固定した大学の先生が、同じ趣旨の中で関わる、各学校の研究主任がそれに賛同して広げる。そういったものがうまく回転してというか、循環して、好循環を生み出して、今すごく僕が教えていた時代の授業のあり方よりもずいぶん変わったのではないかと思います。

先日のフォーラムの中で子供の意見が出て、先生たちが僕たちで学んでいくのだというのが非常に面白かったです。今手元にその発言記録を持っているの

ですが、そういった授業の変化が起きているのではないかと考えています。そういった授業の変化のあり方をうまく基本方針1で具現しているような内容になっているなと思っています。

それと同時に、これは公教育なので、学校教育なので、基本方針1は具体的に書くことができますが、基本方針2、3、4は、町全体に向けているような内容なので、どうしても抽象的にならざるを得ないところがあるなと思います。そこは当然と言えば当然で、どう町民の意図・思い・希望を拾っていけるのかというところが、課題になってくるのかなという思いを持って見させていただきました。

○田村町長

先ほども申し上げましたが、これまではこうだったというのはおそらく通用しないというものがかなり出てくると思います。これまでの成功例が必ずしもそれで行けるとは思えない時代ですよ。やっぱり社会が変化している、新しい社会になっていく。そういうわけで先生も先ほど申し上げた、先生も自己変革を迫られる。また、一番基本的なところ、個別最適ということが可能になってきますよね。その中で先生の変革、それからそこで学ぶ一人一人の子供の教育に対する学びの姿勢も変わってくる。また、社会にとっても変わってくる。社会の変革。新しい時代の新しい教育のあり方を大綱で示していますよね。自分でも今しゃべっていながら、そんな感じがしますね。

○増田委員

この前のフォーラムで、学校の先生は必要か必要じゃないかというのがあって、児童がいる・いないという子とでプレゼンしてくれたのですが、いると言った子の回答が、先生の役割は勉強以外のことを教えてほしいとか、人生の先輩として大人との関わり方を教えてほしいとか、すごいなと思ったことを思い出しました。

○田村町長

ありますよね、先生の役割。社会から要請される先生の役割というのが変わっていくのではないですか。ただ、私が小学校や中学校で教わった先生というのは、一人を除いて全員亡くなってしまいました。先生との出会いの中で自分に影響を与えた先生っていますよね。だからそういう先生になれるかもしれない。それはこれから強くなるかもしれないですね。

それではですね、吉田町教育大綱について、このように策定するということでもよろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは、以上で1つ目の議題で

ある吉田町教育大綱についてを終了したいと思います。

(2) TCPトリビンスプランについて

○田村町長

次に、TCPトリビンスプランについてを議題としたいと思います。

事務局からTCPトリビンスプランに対するパブリックコメントの実施結果とそれを踏まえたTCPトリビンスプラン（案）の説明をよろしくお願いします。

○事務局

それでは、資料No.2を御覧ください。

令和6年度からのTCPトリビンスプランについて、これまで、教育大綱と同様、教育推進委員会を3回、総合教育会議で2回の議論を重ねてまいりました。

前回11月22日に開催された第2回総合教育会議において、本プランの今後の方向性がおおよそ固まった中で、12月に実施しましたパブリックコメントでは、1人の方から3件の御意見をいただいています。

本日資料を付けていませんが、口頭で申し上げますが、この資料の一番後ろにA3で折り込んである資料を御覧いただければと思います。パブリックコメントの内容の一つが、教職員が授業等に専念できる環境づくりの施策、放課後の時間が生み出されたことによって授業の充実が図られるのか疑問であるというふうな意見がございましたので、回答としては、教育課程の編成上、意図的な4時間日、5時間日を設定することで、教職員が教材研究を行う時間が確保され、それによって授業の充実が図られるという教育委員会としての考え方を示しています。

また、その他2つの御意見は、指標の内容について疑問を呈する内容でしたが、設定したそれぞれの指標は、このTCPの目標に向けて必要となる指標であることを回答しています。

また、このパブリックコメントについては、ホームページ等で公表させていただいています。この3件のパブリックコメントの御意見を受けて、内容を変更した点はありませんので、基本的には11月の総合教育会議で皆さんにお示しをした内容に変更はございません。

ただ、2か所、言い回しを変更した点がございますので申し上げます。

まず1点目は、子供の「確かな学力」を保障する環境づくりの（指標1）、「課題解決に向けて自分から取り組んでいると感じている子供の割合が80%以上」とありますが、11月の総合教育会議の時には、「自分から取り組んでいる子供の割合」として、「感じている」という言葉が入っていませんでした。教職員や保護者の（指標1）を見ていただくと、「やりがいを感じている教職員」、「何々

と感じている保護者」のように、主観が誰なのか「感じている」という言葉を入れることで、子供の主観であることが分かりますので、今回「感じている」という言葉を入れて改めています。

それからもう1点ですが、「保護者が安心して子育てができる環境づくり」のところで、ウの「相談体制の充実」のところの二つ目、教育支援センター「ステップルーム」の運営のところですが、これは11月の時点では適応指導教室「ステップルーム」となっていました。文部科学省からの通知を受けまして、「適応指導」という言葉が適切ではないということから、「適応指導教室」から「教育支援センター」に変更しています。これは、1月5日時点で吉田町のステップルームを教育支援センターという名前に変更していますので、そちらの名前に変更したということです。

以上、軽微な変更をかけまして、こちらの内容で進めていければと考えております。

では、最後に本案の確認をしていただきたいと思います。令和6年度からのTCPトリビンスプランの新たに目標を掲げさせていただきました「子供、教職員、保護者が共に元気になり、三者にとって魅力ある教育を実現する」と設定しています。

それから指標についてですが、ただいま申し上げた目標が達成されているかどうか、あるいはその進捗を図る物差しとして、T、C、Pそれぞれに2つの指標を設定してあります。

まずTの教職員については、「仕事にやりがいを感じている教職員の割合が100%」、「時間外勤務時間が月45時間以内の教職員の割合が100%」、この45時間以内というのは、吉田町立学校教育職員の業務量の管理等に関する規則の中で定められている時間外勤務時間です。それから指標1については、教職員個人が思う主観的指標、指標2は実際の時間外を集計して表すことができる客観的指標となっています。

それからCの子供についてですが、「課題解決に向けて自分から取り組んでいると感じている子供の割合が80%以上」、学びに向かう姿勢という主観的指標になります。それから、これまでと同様、「全国学力・学習状況調査の平均正答率が県平均以上」という客観的指標の2つを設定しています。

それからPの保護者ですが、一つ目は「子供が楽しく学校に通っていると感じている保護者の割合が80%以上」、それからもう一つが、「安心して子育てのサポートを受ける教育環境があると感じている保護者の割合が80%以上」、どちらも主観的指標として二つの指標を設定しています。

こうしたT、C、Pそれぞれの指標を物差しとして、目標を達成するための3つの環境を整えることが大切になります。左端にある教職員が授業等に専念で

きる環境になっているかどうか。真ん中で、子供の確かな学力を保障する環境になっているかどうか。そして右側の、保護者が安心して子育てできる環境になっているかどうか。この三つの環境づくりをするための具体的な施策が、指標の下に示されているものでございます。既に皆さん御承知ですので、大きな項目だけお伝えしますが、まず教職員が授業等に専念できる環境づくりの施策としては、アとして放課後の時間の生み出し、教育課程の工夫、イとして学校閉庁日の設定、ウとして校務支援のための環境整備、エのコミュニティ・スクールの推進、オの児童生徒の適応支援、カの部活動の地域移行の推進、以上をそれぞれ施策として掲げています。

次に、子供の確かな学力を保障する環境づくりですが、アの魅力ある授業づくりのための支援、イのICT環境の整備、ウの個に応じた支援の充実、エの外国語学習支援、オの学ぶ力と郷土愛を育むための支援、カの幼保小中のつながりのある教育の推進、キの授業に集中できる快適な教育環境の整備、これについて、施策として掲げています。

それから保護者が安心して子育てできる環境づくりについては、アの放課後・休日の子供の居場所づくり、イの学校給食の実施日の最大化、ウの相談体制の充実、エの学校と家庭との連携、オの家庭教育への支援ということで、それぞれ施策を掲げています。

以上が令和6年度から実施していくTCPトリビンスプランの概要ですが、この施策一つ一つの詳細説明については、冊子の中にそれぞれ記載していますので、御確認いただければと思います。また、この冊子の内容については、教育大綱同様、ホームページにも掲載する予定です。事務局からは以上です。

○田村町長

それでは、まずパブリックコメントについて、また、TCPトリビンスプランの案について、御意見を伺いたいと思います。

○増田委員

教育委員として何年か身を置かせていただきましたが、TCPトリビンスプランに書かれていることが着実に実行・実現されてきたなというのを感じます。その上で、まだこれから力を入れなければいけないところ、若しくは、新たに重点的に対応しなければいけないものというのが全体的に網羅されていて、以前よりもより具体的に明確に表記されているなというのを感じます。前回の教育委員会の時に説明をいただいたのですが、校務支援システムのクラウド化を進めるということで、これまで教職員と生徒と保護者の間の情報共有が少し非効率だったような気がしまして、私はそこを進めるということが、非常に大きな前

進になるのではないかと、その説明を聞いて感じましたし、それが表現されていると思いました。

○中村委員

吉田町教育元気物語って、前からずっと思ったのですが、なぜ物語なんだろうと思っていたのですが、最近ふと思ったのは、物語って連続性があるというか、出来事の次に出来事が起こって、要するに単品じゃないということですよね。それぞれが関係し合っている。それがストーリーなのだろうと思うと、このTCPのTの中でもそれぞれの連続性があるって、相互作用があるって成果を生み出すというところがあるし、それは同じくCの部分でもPの部分でも同じであるし、それからTCPそれぞれの連続性というか、関係性というか。そういうものがあるって、効果を生むから元気物語としているのかなと思って見ていました。そういった意味では、例えばDX化もそうですし、ICTの環境の整備といったことが保護者の理解が深まるということにつながっていくという連続性というか。関係の中で、うまく関係性を持って教育が充実してくるようなイメージで捉えられるのではないかなと思って見ていました。

中でも子どもたちの学力を保障することに関しては、本当に町でもICTの整備であるとか、あるいは外国語の支援であるとか、あるいは吉田探究の推進であるとか、そういったものを中心に手立てを打っていただっていくことは本当にありがたいなと思っております。

○北澤委員

TCPトリビンスプランは三者が元気になるという、先生だけが疲れてしまっている学校教育というのも問題があるって、そこから始まったと思うのですが、うまいバランスが取れるような教育現場、教育の場所というのが子供が一番安心して学べるようにと、学べる場というのを先生と保護者も一緒になって築いていかないといけないのではないかなということはずっと思っているのですが。本当に子供たちがどんな学びをしたいのか、どんなことに興味を持っているのか、その変化に先生もそうですが、保護者も付いていかないといけないなというのをすごく感じていて。今、ICTがすごく活用されて、吉田町の子供たちは探究心が高まっているというのを感じている中で、どんどんその変化、子供たちのやってみたい、これをやってみたいという学びの提供が変化していくのではないかなと思った時に、TCPも一緒にバージョンアップしていけるものになっていけばいいなと思いますし、吉田町ならではの魅力がこのTCPトリビンスプランなのではないかなと思うので、吉田町で子育てをしてみたい、こういうことまでしてくれるのか、自分たちもそれに何か関わることがあるんじゃないか、

そういった魅力を感じてもらえるものになっていけば、成長していけばいいなと思います。より町民にしっかり浸透をされるような、そういった広報活動というのもすごく大事だと思います。

本当に私が教育委員会に入ってすぐにこのTCPトリビンスプランだったので、戸惑いがあったスタートだったのですが、この何年かの成長と進化が魅力的に感じて私自身はいますので、そういったものを皆さんに分かっていただければいいなと感じています。

○田村町長

実際に三者を見ると、やはりよく言われていたのは、先生が毎日忙しくて、とてもじゃないけど明日や明後日の授業の準備ができない。先生もやりがいを感じなくなるとか、だんだんダウンしてくると。子供たちが自分から取り組んでいくという中で自分たちもだんだん自分から取り組んでいくという姿勢が減退していくと、それが波及してですね、親たちも教育について批判的になってきてしまうんですね。全てがマイナスの方向に行く、そういうふうな町の方が見えたんですね。そのためには、先生がやはりそれなりの余裕を持って、教育を後押しすることができると、先生がやりがいを感じてくれると。子供たちもですね、先生から一方的に教わるのではなくて、自分たちからやっていくという姿勢ですよ。そこについて見ていくといいなと。そういう三者がプラスの方向に動いていくというか、そういう方向が見えてきたような感じがします。

教職員が授業等に専念できる環境づくりで、指標1は主観ですが、指標2は客観ですよ。先生方の時間外勤務は結構収まってきているのですか。

○事務局

そうですね。どんどん少なくなっています。

○田村町長

そんな感じですよ。ある人がこんなことを言っていました。TCPトリビンスプランが始まってから、金曜日に仕事が終わってから、みんなで飲む時間ができたんだと。みんなで集まっていろいろなことを話したり、今まではとてもそんな時間すらもなかったと。終わればそのまま家に帰ってボタンキューだと。そういう余裕が生まれたと。そういうふうなものも大きな変更点でしょうし、やはり指標1、子供の場合ですね。課題解決に向けて自分から取り組んでいると感じている子供の割合は増えているのですか。

○事務局

これはそうですね、学力調査の中の質問項目にありまして、増えているかどうかはその統計は分からないのですが、吉田町の感覚としては増えているというところで、期待したいなと思います。

○田村町長

主観の割合ですが、そういうデータはそれなりに出ているのでしょうか。

○事務局

質問項目を見ていけば、上がっているのではないかと思われそうですが、今の時点ではお答えはできないのですが。

○田村町長

指標2が依然として高いハードルなんですね。結果として出てきてしまうのでね。

○事務局

小学校は上がったたり下がったりで、中学校がまだ達成していません。一応グラフとしては平均に近づいているということですが、ここ2年ちょっと下がってしまっているのですが。

○田村町長

最終的には問題に何が書いてあるかを理解して、何が問われているのかを理解することですね。そういうことでまたよろしくお願ひしたいと思っています。いろいろな意味で三者が共益になるような関係がこれからできてくると思います。

○増田委員

さっき思ったのが、やっぱり学校の先生が魅力的になるべきだと思うんですね。子供が、ああ、学校の先生になりたいと思う割合が高まっていくのがいいなと思うんです。憧れの職業、今もそうでしょうけど、もっと上げてほしいなと思います。

○田村町長

今も先生になりたいと思っている人は昔より下がってきているのでしょうか。どうなのですか。

○事務局

下がってきているとは思いませんけれども、なかなかいろいろな、昔とはまた違った課題、教育課題等があるものですからね。例えば教育学部に行っても教員にならない学生さんがいたりとか、そういう方が増えてきていますよということは、聞いたことがあります。でも、意欲を持ってね、教職の道に進みたいという方はたくさんいらっしゃると思いますので、ぜひ頑張ってほしいなと思っています。

○田村町長

親の中にモンスターペアレントがいて、その対応をして先生が疲れてしまう。これからは弁護士を職員として雇うとか教育委員会に入れるとか、そういうふうな形でやっていかなければならないかもしれません。そういう時代なんでしょうね。ほかの自治体では、そういうことを考えつつあるところもあるんですよ。結構弁護士も今、余っているものですから。若手の弁護士の中には食べることに結構困っている弁護士がいるんですよ。そういうのをどんどん巻き込んでいって、モンスターペアレントに対応させることになるかもしれませんね。

○中村委員

自分は教育委員でもあり、学校にも勤めていて、現在も支援員として入っているのですが、特に指標の教職員が授業に専念できる環境づくりで、意図的な4時間、5時間の設定というのは、言ってみれば物理的にそうなのですが、やっぱりそこで先生方のゆとりだとか、時間的なゆとりだけでなく、精神的なゆとりが、例えば休みを取るということに関しても、比較的協力態勢ができるだとか、そういうのってすごく大事なことですよね。気軽に年休が取れるだとかっていうのは、いざとなると自分がいなくなることで他の人が忙しくなるので、休みにくいという環境もあったかもしれないのですが。そういった意味では、今の職場を見ていると、気軽に休めて、その支援員もいるようなことがあって、負担が軽減されているというのは非常に大きなところじゃないかと思うし、それがやっぱり教える場合での心のゆとりであったり、物理的なことも書いているのだけれども、実際的には精神的にかなりゆとりが生まれているということはあるのではないかと思います。ICTもそうなのですが、そういうようなところで非常に意味のあることなのではないかというのを感じています。

○田村町長

北澤さんは自分のお子さんが自彊小を卒業して、中学に入っていますよね。自分のお子さんを見て、この10年ぐらいでどんなふうに変わったと思いますか。

○北澤委員

先生がとても忙しくて、担任の先生が出張なり研修なりで今日いなかったという話をよく聞いたりとか、実際に先生たちが忙しかったので、この宿題を見れませんでしたという話もあったりとか。そういった中で忙しいんだねという話から入ったのですが、今もそう、先生たちがそれでもお忙しいとは思いますが、全てを先生が担う必要はないかなというのもあるって、それこそ支援員の方が横に付いてくださっている時間もあったりとかして、すごく手厚く見てくださっていたというのは、すごく子供を預ける身としてはありがたかったなというのはありましたし、子供の変化に気づいてくださって、声を掛けてくださった先生もいらっしゃいますし。そういった先生たちにとってみたら、業務の負担はあまり感じていないのですが、保護者としてはとてもありがたいことで、そういったものが先生たちはそれが普通だというのが、忙しさのあまりにできなかった。それを逆に先生がすごく罪悪感を持っていらして、すいませんでした、って謝られるのを見て、それも心が痛いなというのがあるので、まだまだ多忙は続いているとは思っているので、そういった面で先ほど町長もおっしゃったように、弁護士の方を付けるなり何なりというの、すごく専門の方を付けるというのも大事なのではないかなと。お互いにとって1対1ではどうしても分かり合えないというのがあったところに第三者を置くとか、他の先生ではなく、一歩外に出た方に相談ができる体制というのが充実していることがすごく親にとっても気が楽というか、気分が落ち着くのではないかなと私自身も感じていて、それこそ先生に、直に先生に話をしたいことでも、親もすごく気を遣っている家庭も多いと思うんですよ。そういった面で、お互いの時間とすれ違いと、お互いを思っていることがすれ違いに変わってしまうこともあると思うので、そういった面を補う助けが必要だと思いますし、教育委員会の中でも、やっぱり生徒指導の問題があったり、子供たちが抱える問題って複雑だったりするんですよ。文章でいただいても、その中にその子の気持ちがあって、状況があっての話があって、そういったところをサポートする態勢というのは、保護者だけじゃなくて、地域や本当に専門の方の力を借りて、やっぱりそういったところに向き合っていってほしいなというのを感じているので。そうですね、三者同士で助け合うではないですが、コミュニティ・スクールもそうですが、地域の方もそれこそ専門の方も入れて、みんなが自分が抱えているものに対して解決ができるような道を取っていけると、すごくありがたいなと感ずるので、そういったところも手厚くしていただきたいなと感ずています。

○田村町長

今まで学校が始まってからいろいろなことを社会がみんな学校に付けたんで

すね。それがようやく一つ一つ剥がされている。本来の学校にしようという意識がある。明治時代の社会というものが学校に押し付けたものがいろいろなすごいことになるんだなと思いますよね。それを一つ一つ外して、本来の学校をつかっていくというか、取り戻していく。そういうふうな作業をしないとこれから無理ですよね。先生がやりがいを持って先生になりたいと。そういう人が先生になってもらいたい。自分たちもそういう先生に出会いながら自分で勉強していく。学校に行くのが楽しい。そういうのが本来のありようですね。吉田町の教育がこういう形になっていくといいと思いますね。

それでは、TCPトリビンスプランにつきまして、このとおりに進めていくということでもよろしいでしょうか。ありがとうございます。では、2つ目の議題であるTCPトリビンスプランについては終了したいと思います。

(3) 吉田探究について

○田村町長

最後に、吉田探究についてを議題としたいと思います。

事務局からこれまでの吉田探究の実施内容、令和5年度の主な取組事例及び今後の方向性の説明をお願いします。

○事務局

それでは、資料3とモニター画面を御覧ください。ここから吉田探究のこれまでの取組と今後の計画について説明します。まず写真を御覧ください。各学校で今年度の学びの過程や、それぞれの成果を発表している場面になります。吉田探究では、子供たちの主体的な学びを実現するために、様々な工夫をしながら学習に取り組んできました。例えば、こちらの写真ですが、これは自彊小学校で5年生が保護者に向けた防災の学習の発表をしているところです。それから、下の写真ですが、こちらは吉田中学校の3年生が参観会の中で保護者、地域の方、それから役場の職員を招いて、吉田町の未来を語る会ということで、自分の考えた学んだテーマについて発表している場面になります。それから、こちらの写真ですが、こちらは住吉小学校です。真ん中にいらっしゃるのがGoogleの社員で、パートナー自治体で連携を取っているものですから、Googleの方を講師に招いて4年生がスライドの作り方について学んでいる場面です。それから、こちらの上の写真は、これは中央小学校ですが、3年生から6年生までのみんなが、まごころフェスティバルというものを開催しました。その延長線上で、これは北オアシスパークで行われているGB'ズマルシェという中で、子供たちが学んだ成果を地域の方に向けて発表している写真になります。このように学校内の単なる調べ学習ではなく、地域と共に学び探究し、それを地域に発信していく。

そういう学習をこれまで行ってきました。

吉田探究では、小学校3年生から中学校3年生まで、このような学年ごとに大きなテーマを設定して学習に取り組んでいます。吉田探究では、育成したい6つの資質・能力を設定しています。中教審やその他の様々な教育関係の資料の中では、今私たちの住む世界は、これまでにないスピードで変化をしていて、想定できない変化が起きる世界になっているということがよく言われています。現在、インターネットを使わない人はほとんどいないと思います。また、スマホは子供からお年寄りまで多くの方が使っていて、様々な手続もデジタル化が進んでいる世の中です。現に役場の中でもDX化が進んでいると思います。この世の中で、今の子供たちが大人になった時には、これまで当たり前だった仕事がなくなって、職業の選択肢がどうなっているのか想像もつきません。そこで吉田町でもGIGAスクールを推進し、子供も教職員も先生から教えてもらう受け身の授業から、自ら主体的に学ぶ授業に授業観を変えるために様々な施策を行っています。

そうした中で、吉田探究では変化の大きな世の中を生きていく力を、この6つの資質・能力によって身に付けてほしいと思っています。そして、吉田町教育目標である「生涯にわたり学びあい高めあう人づくり」を目指していきます。こちらは中央小学校が作成した評価基準になります。先ほどの6つの資質・能力の中で、それぞれの学習の中で具体的にどの場面でどういう力を付けていきたいのかということ进行分析し、見通しを持った学習を行っています。

では、具体的に学校の中でどのような学習が行われているのかを紹介したいと思います。まず、吉田中学校ですが、3年生が吉田町への提言という発表会を行っています。これは広報よしだにも載っていた授業を転載しています。テーマとして吉田町の産業を活性化するにはどうしたらいいか。それから、災害対策をした安全・安心な町にするにはどうしたらいいのかということなど、産業や観光・防災・環境など、それぞれ生徒が設定したテーマについて調べて、保護者、それからコミュニティ・スクールと学校運営協議会の委員、また、町の職員に向けて発表会を行いました。で、発表の中では、地域の方や役場の職員から、生徒に対して君たちが大人になっても住みたくなるような町にするにはどうしたらいいと思う？という意見交換をするような場面があって、生徒が保護者とともにこれから町をどうしていけばいいかを考えられる。そういうような授業になっていました。

具体的に生徒はこのようなスライドをつくって、ポスターセッションの形で発表しました。この子は吉田町に観光地と観光客を増やして、吉田町を活気があり人気の町になるようにしようというテーマで調べています。例えば、どんなものかということと駅ができたらいいか、大きな道路、大きな駐車場があって、いろ

いゝな観光地を増やしていつて、人を集めていこうというテーマを発表しています。

また、住吉小学校ですが、6年生が地域の企業である本橋テープと協力して、バッグの作成を行いました。こちらが現物ですが、このようなバッグを作りました。今、スライドに映っているのは、よし吉カラーで、よし吉をイメージしたカラーになります。それから、こちらは現物ですが、静岡おでんカラーです。静岡おでんをイメージしたものになります。これは子供たちが吉田町の特色を生かしたデザイン、それから、使い勝手の良さなどを考えて、それについて本橋テープに自分たちの考えを宣伝して、それを商品化するという取組を行いました。最終的にはこのバッグについては、保護者や子供たちに販売をする活動まで行っています。

それから自彊小学校ですが、こちらは4年生の学習で、福祉の学習をしています。役場の職員に協力をしていただいています、企画課の田中主査を講師に招いて、実際に車椅子で生活をしている方の話を聞いて、自分たちに何ができるかということ学ぶことができました。車椅子体験をしたり、車椅子用の自動車を実際に見せてもらったりとか、話を聞いたりして、具体的な場面の中から学んでいます。子供たちからは、車椅子の方を見たら自分から声を掛けて助けていきたいという気持ちが生まれたという感想が出ていました。

続いて中央小学校です。中央小学校では、3年生から6年生までが吉田探究で学んだことを、保護者や地域の方に発信することを目的として、まごころフェスティバルというものを開催しました。これは当日の運営から、準備、全て子供たちが行って、各学年の学習成果の発表。それから、この中では学習に協力してくれる町の企業の方も参加して、地域と学校が一体となった学習の発表の場となりました。例えばここにあるように、福世オートサービスさんとか、松浦食品さんとか、本橋テープさんとか、様々な地域の企業の方が協力をして、教室でブースを開いて、体験などをさせてもらっています。その中で一つ、これは松浦食品さんですが、うなぎポテトチップス、それからしらすのポテトチップス。こういうのも子供たちで考えて、商品化をしてもらって、パッケージの絵を考える。こういう活動も実際に行って販売をしていました。

さらに今年度、吉田町全ての小中学校の児童生徒が企画課とコラボをしたシーガーデンシティ構想の授業をやっています。町内の子供たちとどのようにこの土地を活用していけばいいのかということ考えた授業を行いました。子供たちは場所についての活用方法をグループで話し合つて、このような思考ツール、スライドを作つてまとめていきました。子供たちが意見交換をする中で、土地の利便性、海に面した景色の良さであるとか、どういった年齢層をターゲットにしたら人が集まるのかというような様々な条件を考慮しながら夢のある構想

を練っていました。その中で温泉があったらいいなとか、カフェがあったら人が集まるんじゃないか、観覧車があったらいいね。いろいろなアイデアが出たのですが、そういうアイデアをまとめながら、夢のある授業を行いました。

例えば、こちらは自彊小学校の子供たちが防災センターのパンフレットがこんなふうになったらいいなというものを作ったパンフレットになります。これがうなぎチップス、それから住吉小の子供たちが作ったかばんになります。回して見ていただければと思います。

○増田委員

実際に販売をしたのでしょうか。

○事務局

そうです。イベントの中で保護者等に向けて販売しました。子供たちは吉田探究の授業を通して、子供たちが身に付けたものというのは、探究のサイクルをフル活用してこれから自分たちが生きていくためにどうしたらよいのか。探究のサイクルというのは、課題の設定や情報の収集、整理、分析、まとめ、表現、このいろいろな学習の段階を踏んで学ぶことですが、探究的な学びにおいては、自分の興味関心は何なのか。それから、自分の問題意識が何か、また将来の姿はどんなものなのかということのスタート地点が違ってきます。その上で情報を収集、整理し、自身の考えを深め、その考えを他者に伝えるために表現するプロセスが必要です。先生に言われたからやるのではなくて、自分が学びたいから学ぶ。より良く学ぶためにはどうなりたいかを考えて、集団や個で考えると。そういう経験をこの吉田探究の中で行っていくことでした。

これまで紹介した学習の中でも、グループで話し合いながら担当を決めたりとか、友達が困っていたら助け合うという姿を見ることができました。また、発表のための資料づくりや、分かりやすくするためのグラフやイラストを使うということも、自分の考えをみんなに納得してもらえるように、そういう根拠やデータとなるものが必要だということを学んだ結果、自分たちで考えたのだと思います。このような体験を通じた学びにこそ、実社会や実生活に必要な知識、スキル、経験値となり得ると思います。つまり、これまで何を知っているかということから、知っていることを使って何ができるのかを重視した学習を、この吉田探究で学ぶことができると思っています。

さらに、これまで学習してきた活動を支えてくれる大きな力としてコミュニティ・スクールがあります。授業に必要な地域の人材と学校をつなぐ役割を、この写真にあるように各学校にいらっしゃるコミュニティ・スクール・ディレクターの方が担ってくれています。今後、学校運営協議会の中でも、吉田探究につい

で深く関わっていただくことで、地域と学校が一体となった学びが可能になります。吉田探究を通して、子供の姿を地域に知っていただいて、共に活動することを増やすことで、吉田探究によって子供も育ち、地域も育つ町になっていくことを期待しています。

また、これからの吉田探究ということで、今後の取組として今計画しているのが、各学校で行っている今日御紹介したような取組を、さらに多くの方に知ってもらいたいと考えています。そこで、吉田探究交流サイトの開設を計画しています。今は案の段階ですが、このようなホームページのようなものを作っていきたいと思っています。ホームページの中には、各学校の取組を紹介するページを作っていて、例えば中央小学校を選ぶと、中央小学校のこれまでの取組、どんな学習をしてきたのかという資料が見ることができたりとか、これは動画になっているのですが、例えば子供たちが発表している様子を動画で撮って載せるとか。こういうふうな各学校のページを作っていくことで、このページ内に各学校の取組を紹介して、多くの方に知ってもらおうということを考えています。このサイトについては、保護者や子供が見ることができて、吉田探究の学習成果について、発表会等の最終的な成果だけの姿ではなくて、学習の過程を知ってもらうことができ、子供たちの学びの姿を保護者や地域の方がより詳しく理解してもらうことができると考えています。

また、この情報をホームページの最初の1か所にまとめていくことで、各学校の取組が明確になり、各校の学習の様子を知ることができて、子供たち自身も自分の学習に生かすことができると考えています。このような取組を通して、これから吉田町を担っていく子供たちが、さらにすてきな探究者になれるように、町としても支えていきたいと思います。以上で吉田探究の説明を終わります。

○田村町長

ありがとうございました。それでは事務局の説明が終わりましたので、吉田探究につきまして皆さんの御意見を伺いたいと思います。

○増田委員

今のプレゼンを聞いて改めて思いましたが、吉田探究、非常にいい授業だなと思います。一番初めの教育大綱ですか、教育目標を達成するための1つのツールとして、大きな役割を果たす取組だと思います。

先日、中央小のまごころフェスティバルに参加してきました。そうしたら、3年か4年の児童だったのですが、プレゼンをしてくれたのですが、非常に生き生きとしていたんですね。やっぱり自分で考えて自分で発信するというのは気持ちのいいものだと思うんですね。そういうことが体験できる機会として、非常に

吉田探究は効果があるとそこで思いました。この数年でしょうか、吉田探究を外に発信する機会を増やしていただいていると思うのですが、よりそれを加速していただいて、町民の皆さんが小中学生の子たちがやっている吉田探究に興味を持ってもらいたいと思いました。やっている内容も素晴らしいですね、福祉、防災、それらを本当に子供たちが発信するというのが大事だと思いますので、町民の皆さんそれを受け取ってもらうそういう機会を増やしてもらいたいなど改めて思いました。

○中村委員

本当に吉田探究がダイナミックに行われているなと思います。実際問題として、子供の生活圏って学校ぐらいしかないので、町のことで本当はあまり知らないですね。行き帰りぐらいのことしか本当は分かっていなくて。こういった町内の企業とつながったりだとかということが、体験的に学べる機会って本当に郷土愛を育む上でもすごく大事だし、それから、そういった人とのつながりの中で、知ることだけではなくて、課題を自分たちで作るから、それこそ先ほどから出ている答えのない課題を見つけていったりというような。それから友達と一緒に協働的に学ぶとか、最終的にプレゼンテーションがあるものだから、形を整える必要もあるしということで、学びとしても非常に質の高いものができるのではないかなと思います。こういったことをどんどんと、今度はその発表の質だとか、中身だとかというような質を高めていくようなことがだんだん課題になってくるのかなと思いました。

○北澤委員

小学校3年生から中学校3年生までの間にいろいろなことで吉田町を知る機会があるというのは良いことだと思います。特に中央小学校さんは昔からキャリア教育というものをやっていた印象があるのですが、そういった土台がすごく活用されていて、まごころフェスティバルなど子供たちが主体的にできるのはそういうところなのかなって思うのですが。少し思うところがあるのは、本橋テープさんとかの商品をつくって終わりではなくて、自分でPRして売り出すということになると思うのですが、吉田町の企業に協力を願う前に、吉田町で私が少し知りたいと思うのは、この会社がどんな成り立ちで、この会社の独特なデザインというものを、やっぱり子供たちは基本的なことを分かっているのかなというのを、魅力をしっかり、子供たちが魅力を感じて、それだったら僕たちはこういうふうな形にしてみたらどうだろうとか、自分たちが魅力のあるデザインをもう少し工夫してみたらどうだろうと。で、発信してみたいなという子供たちの、そもそも吉田町にある企業がどんな会社なのかというのを知ってくれ

ていると、もっとうれしいなと。こういうお菓子もそうですけど、大好きなんですけど、こういったものを口にして、その魅力を子供たちが受け取ってくれたらいいなというのもある。それこそコミュニケーションを取って、これもおいしい、自分たちはもうちょっとこういうふうにはチャレンジしてみたいという発想の下で商品化する過程を少しみたいなのというのがあって、これをつくりましたというプレゼンも素晴らしいのですが、過程を大事にやっていただけるとうれしいなと感じました。小学校4年生でやるというのは、1年間しかない中で、限りある時間だと思うのですが、ただつながりを感じさせるのであれば、本当に1つずつ年を追うごとに深く深く知って行って、じゃあ自分たちはどんなことにチャレンジしたいなのというので、何年か掛けての企画でもいいのかなとも感じて。浅井先生がつくってくださったホームページなどを見ても、自分たちはこういうことに探究心を持ってやってきたんだ。じゃあ小学校6年生の時にあれをやってみよう。あそこの会社にもう一度話を聞きに行ってみようというような、そんな過程になればいいなというのもある。中学校までつながりのある、自分たちがどれだけ成長して、深みのある学びができていくのか、自分自身で、自分はここまで詳しくなって、ここまでできたんだという成果を持って最後はいつてもらいたいなのというのができるのではないかと感じて、これからの吉田探究を楽しみにしたいなと思いました。

○田村町長

吉田町のことをまず知って、今の吉田町を知って。私もそうですが小学校や中学校の時にこの町のことって一部のことしか知らないですよ。だから本当の吉田町のことを知って、まず知ってもらって、さらに今度は行く末。そういうのを全部知ってもらって、自分だったらどんな町をつくりたいのかなと。こんな吉田町の福祉であるとか防災であるとか、そんなことを勉強したら、こうなってほしいなとか、自分の意見というのを持てるようになってくるんですよ。それが一番大事だと思うんですね。だから自分で学んでいくという、そういうのが非常に大事ですね。

「伝」というものがありますよね。吉田町の企業の皆さんが、吉田町にはこういう会社があるんだよと。こんなことをやっているんだよと教えていく、又は知ってもらって、そういうのが非常にいいなと思います。さらには地域で学校等を運営していく。いろいろな意味で重なり合って教育の連携をしてやはり大きなものづくりが吉田探究だと思うのですが、その中にいろいろなものが入ってきて、子供たちが自分で成長していく、そういうふうな基盤が少しずつできてきた感じがしますね。さらにまた皆様の、これからこんなことをやるといいよとか、そんな何か取組がありますか。

○増田委員

先ほどの吉田探究交流サイトが楽しみではないですね。これを皆さんに見てもらいたいと思いますし。今浮かんだのは、防災、福祉を勉強されているので、年3回の防災訓練の時ですね、子供たちが集会場に来てですね、プレゼンしてもらい、発表してもらい、こういうことができたらいいなと思います。

○田村町長

子供のやる気ですね。中村委員は何か付け加えることはありますか。

○中村委員

特にないです。交流サイトはとてもいいなと思いますけれども、あまり仕事の負担にならないように。発信するためにはそれなりの人材と時間が欲しいということと言えるかなと思っています。

○田村町長

未来を担う子供たちにいろいろな意味で多層化してきていますよね。本当にいいなと思いますね。皆様、言いたいことがありますか。

○増田委員

さっきの交流サイトもそうなのですが、コミュニティ・スクール・ディレクターが皆さん頑張っていて、地域に発信をしてくれている。各小中学校のホームページが頻繁に更新されているのですが、かなり型が古いというか、Webサイトが古い気がします。吉田町もホームページを変えようとしています。なので、ぜひ小中学校も今風のものにさせていただいて、あとは町のホームページとリンクをちゃんとしていただいて、皆さんに見ていただきたいと思います。

○田村町長

それではですね、吉田探究について皆さんの意見をお伺いしましたので、これをもって事務局説明の方向で進めていくということによろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは本日の全ての議事を終了しましたので、進行を事務局にお返しします。

3 閉会

○事務局

ありがとうございました。教育委員の皆様におかれましても、長時間にわたり

誠にありがとうございました。本日お認めいただきました吉田町の教育大綱とTCPトリビンスプランについては、町のホームページに公表させていただくとともに、児童生徒の保護者の皆様にはきずなネットにおいて周知をさせていただきたいと考えておりますので、御承知おきいただければと思います。

以上をもちまして、令和5年度第3回吉田町総合教育会議を閉会します。恐れ入りますが相互のあいさつを交わしたいと思いますので、一同御起立ください。一同礼。